慢性腎臓病患者の血中 Smad1 および病態関連因子に関する研究

CKD・ESKD 患者を対象に血中 Smad1 を測定し、原疾患の各種データとの関連性を検討することにより、CKD の合併症（動脈硬化病変・心血管イベント・貧血・二次性副甲状腺機能亢進など）の因子分析を行った。血中および尿中 hepcidin 測定、血中 Fetuin-A・matrix Gla protein（MGP）・BMP 測定を行い、ヘプシジンは動脈硬化巣においてマクロファージにおいて産生誘導され、その制御が BMP-Smad1 の活性化に相関すること、MGP 抵抗性、すなわち Smad1 の活性化が MGP の抑制を受けずに著明に進行するケースがみられ、いわゆる生命予後不良患者を規定する分子病態が MGP 抵抗性にある可能性があることが明らかとなった。